

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
厚田地区

令和3年3月
北海道石狩市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	地域の満足度	%	65	72	82	確定 ●	○	あり	82	R1年10月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	整備した道の駅が石狩北部地域の観光拠点としての機能を発揮し、キャンプ場などの周辺施設の案内機能強化により周遊促進など図られ、地域住民や観光客の満足度の向上につながっている。
指標2	厚田地区の入込客数	人/年	145,000	290,000	542,000	確定 ●	○	あり ●	516,128	R2年4月	○	荒天によるイベントの中止や新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う道の駅の臨時休館などの影響により、入込客数が評価値より減少となった。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	整備した道の駅が観光目的地としての集客施設となったことや、道の駅から自然交流エリアの周遊動線の強化、自然交流プログラムのPR・浸透などにより、入込客数が増えるとともに、周辺施設への周遊促進も図られ、期待以上の効果につながっている。
指標3	自然交流エリアの入込客数	人/年	3,442	4,200	8,442	確定 ●	○	あり	8,453	R1年10月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	自然交流エリアの魅力向上と道の駅との相乗効果により入込客数の増加につながっている。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定				H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標2					確定				H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標3					確定				H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	道の駅の集客・交流・地域活動拠点としての活用	<ul style="list-style-type: none"> 情報誌への広告掲載 飲食テナントによる新規メニューの提供 郷土資料室や休憩スペースにより、企画展の開催 石狩管内道の駅グルメラリーの実施 	道の駅が石狩北部地域の観光拠点としての集客が図られ、周辺施設の周遊促進にもつながった。	引き続き、石狩北部地域の周遊拠点として機能を発揮できるように自然交流エリアの整備など、豊富な地域資源を活用した魅力づくりや観光プロモーションを行いながら集客を図り、周辺施設への周遊促進や交流人口の拡大に努める。
	自然交流エリアの魅力向上とPR	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅のHP、デジタルサイネージにより情報発信や、パンフレットを配布 手ぶらキャンプの実施 遊具の整備 	自然交流エリアの魅力や認知度の向上が図られ、アウトドアブームの後押しもあるが、入込客数が増えた。	引き続き、自然交流エリアの魅力づくりやプロモーションを行う。また、利用者の満足度を高めるため、必要な環境整備を進める。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	浜益地区への観光客の回遊性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅のHP、デジタルサイネージにより情報発信や、パンフレットの配布 クイズを解きながら石狩北部を周遊する謎解き周遊促進事業の実施 	浜益地区を含めた石狩北部地域の魅力発信や周遊促進が図られた。	引き続き、浜益地区を含めた石狩北部地域の魅力発信や周遊促進事業を行い、地域活性化や交流人口の拡大に努める。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(精算報告)

厚田地区

北海道 石狩市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	イカシ 石狩市	地区名	アツタ チク 厚田地区	面積	200 ha
計画期間	平成 28 年度 ~ 平成 31 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 平成 31 年度				

目標

- 【大目標】 厚田の魅力をもつめる交流拠点の形成による地域の活性化
- 〔目標1〕 地域の歴史、文化、自然、観光などの情報を発信し、地域の魅力をもつめる集客・交流拠点づくり
- 〔目標2〕 回遊性を高め、地域全体の経済活性化を図るまちづくり
- 〔目標3〕 地域の豊かな自然環境とふれあい、体験して楽しむまちづくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

平成17年10月、厚田村、浜益村との合併により、新たな石狩市が誕生し行政面積は72,186haと旧石狩市の約6倍の面積となった。石狩市厚田区は札幌都心部から北におよそ40km(車で約1時間)に位置し、石狩湾に面する海岸は暑寒別天売焼尻国定公園に指定されるなど豊かな自然を有している。

通称「オロロンライン」と呼ばれ、本市を南北に縦断する国道231号は、厚田区から国道232号、40号を經由して北海道最北の稚内へ繋がっている。

「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」の建設を予定している厚田公園には、厚田資料室、スポーツ施設、「恋人の聖地」北海道第1号に認定された展望台などがあり、区民の憩いの場のみならず、多くの観光客が訪れている。また、隣接する厚田漁港で開催される朝市にも、旬な新鮮な魚介類を求め数多くの来客があるほか、厚田区望来(もうらい)にある戸田記念墓園は全道有数の桜の名所として知られ、年間約40万人が訪れるなど観光・交流人口のポテンシャルが高い地域である。

これらの地域資源を背景に、厚田区では、スポーツ・食をテーマに区民の健康増進・世代間交流に取り組む『厚田コミュニティ「ゆめ倶楽部」』、厚田区ゆかりの著名人を中心にPRし新たな地域づくり・歴史文化の伝承に取り組む『厚田資料室サポートの会』、厚田の「土地」「味覚」「らしさ」に拘り、漁・農・商・観等の連携に取り組む『厚田こだわり隊』など地域の住民が主体となって独自性豊かな様々な活動を展開しており、今後、地域が一丸となって、これらの活動の発展と内外への情報発信を目指している。

課題

厚田区においては、これまで独自性豊かな活動を展開してきたが、過疎化の進行がとまらず、少子高齢化も深刻で地域のコミュニティ機能や活力が衰退している。そのため、地域の魅力、ポテンシャルを活かした交流人口の増大などによる地域の活性化や地域コミュニティの活力再生に向けた方策が求められている。

- ・厚田の自然環境や風景、歴史、文化など地域の魅力を発信し、交流人口の増大による地域の活性化を図るため、新たな集客・交流拠点の形成が必要である。
- ・地域の豊かな自然環境を活かした地域の魅力向上を図るため、既存施設の有効活用や再整備、自然体験型の新たな観光メニューの創出などが必要である。
- ・地域コミュニティの活力を再生するため、集客・交流拠点の形成とあわせて、回遊性を高め、来訪者が地域内でゆったり滞在できる仕組みの構築が必要である。

将来ビジョン(中長期)

厚田公園内に「集客・交流」「にぎわい」「歴史・文化」の拠点となる複合施設「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」の整備を行い、観光情報や地域の魅力を発信し、交流人口の増大を図る。市民・事業者・行政が協働して観光・おもてなしの視点から拠点づくりに取り組むことにより、来訪客の増加を図り地元へ起業や雇用の場を創出するとともに、自然体験プログラムなどを通じた来訪客と地域住民との交流によって厚田ファン、リピーターの創出を図る。

また、地域も来訪客との交流からあらためて地域の魅力を感じとり、それが「地域への愛着や誇り」となり、それが、さらに地域素材を掘り起こし「地域の魅力を高める」という、好循環を生み出すことが期待される。

市民・事業者・行政が一体となって、施設の複合化・集約化、地域コミュニティの形成や地域商業機能の再生など、生活拠点の再生に向けて取り組むことによって、「何度も訪れたくなるような魅力ある観光地」、「住んでみたいまち」となることを目指す。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
地域の満足度	人/年	集客系施設の利用に係る満足度調査	厚田公園内に「集客・交流」、「にぎわい」「歴史・文化」の拠点となる複合施設「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」の整備を行い、地域住民ならびに観光客の満足度を向上させ、交流人口を増加させる。 評価時点の事業効果分析調査による満足度＝H26の集客系施設のうち利用満足度の最高値を目標値とする。	65%	H26	72%	H31
厚田地区の入込客数	人/年	厚田地区の主要観光施設に訪れる年間入込客数(戸田記念墓地公園、ゴルフ場を除く)	「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」を拠点とし、効果的な情報発信と案内看板の整備などにより、市街地や区内観光施設への回遊性を高める。 評価時点の年間入込客数＝H25～H26の年間入込客数の平均値×2(道内主要道の駅の整備後の入込増加率)を目標値とする。	145,000人	H26	290,000人	H31
自然交流エリアの入込客数	人/年	自然交流エリアに訪れる年間入込客数	地域の自然環境を活用した「自然交流エリア」において、フットパスやサイクリング体験、ウォーキング事業など、魅力ある自然体験メニューを実施し、既存のキャンプ場の利用促進も含め交流人口を増加させる。評価時点の年間入込客数＝H24～H26のキャンプ場の利用実績の平均値×1.3(規模増加分に相当)を目標値とする。	3,442人	H26	4,200人	H31

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 地域の歴史、文化、自然、観光などの情報を発信し、地域の魅力を高める集客・交流拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の「食」「自然」「歴史・文化」などの魅力を発信する地域活性化の拠点となる(仮称)道の駅あつたか・あいろーど¹の整備を行う。 ・整備にあたっては、地域住民を中心に事業者・行政が一体となり、地域の魅力を掘り起こし、住民自らの手でその魅力をコーディネート、やりがいと楽しみをもって事業を推進することにより、地域コミュニティの活性化もあわせて図る。 ・また、これまでの住民独自の様々な活動を支援する機能も付加し、来訪者との交流を通じてさらなる魅力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高次都市施設/観光交流センター整備事業 ・地域創造支援事業/郷土資料展示室整備事業 ・まちづくり活動推進事業/観光交流センターイベント開催事業 ・事業活用調査/事業効果分析調査事業
<p>整備方針2 回遊性を高め、地域全体の経済活性化を図るまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客・交流拠点となる(仮称)道の駅あつたか・あいろーど¹において周辺地域の魅力やモデル周遊コースなどの情報発信を行うとともに、周遊動線の強化を図るため、案内板や案内サインを設置し、朝市や厚田十字街、キャンプ場等回遊性を高めるための仕掛けづくりを行う。 ・また、(仮称)道の駅あつたか・あいろーど¹と周辺の旧スキー場、キャンプ場、自然散策路等の既存施設を結ぶ、緑豊かな林道八幡沢線を自然体験交流の軸として再整備し、区域内の施設間の連携強化を図ることにより、回遊性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設/案内板・案内サイン設置事業 ・地域創造支援事業/林道八幡沢線改良事業 ・事業活用調査/事業効果分析調査事業
<p>整備方針3 地域の豊かな自然環境とふれあい、体験して楽しむまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場を核として、現在活用されていないパークゴルフ場や旧スキー場、駐車場を含めて自然交流エリアとして位置付け、豊かな自然環境を楽しみ体験できる場として充実・強化を図る。 ・サイクリング体験会、フットパスツアー、トレイルランニング講習会等の自然環境を活かした体験型観光プログラムの創出・提供を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業/林道八幡沢線改良事業 ・事業活用調査/事業効果分析調査事業 ・関連事業/トレイルランニング体験 <ul style="list-style-type: none"> サイクリング体験 フットパスツアー ウォーキングイベント

その他

◎石狩市のコンパクト化の方針と本計画の関係

石狩市都市マスタープランでは市域を「住宅ゾーン」「観光レクリエーションゾーン」「港湾ゾーン」「交流農業ゾーン」「自然環境ゾーン」の五つの大ゾーンに分け、各ゾーンの特徴や地域資源を活かした都市づくりを進めるとともに、交流の格となる重点地区や拠点の整備に取り組むことを掲げています。このうち厚田地区は「観光・レクリエーションゾーン」「自然環境ゾーン」とされています。

また、公共施設を20%削減するとした公共施設等総合管理計画の適正管理に関する基本的な考え方において、新規の施設整備事業については単独施設の新規整備は行わず、施設の複合化・集約化、廃止・統廃合を基本とする方針を掲げており、本事業とは齟齬はありません。

